

主 題：教会のリーダーたち

聖書箇所：使徒の働き 6章1-7節

私が浜寺から八田西キリスト教会へ（当時は「いのちの泉キリスト教会」でしたが）遣わされてから、もう9年になるうとしています。その9年間、皆さんから温かく見守っていただき、今も様々な形で、私と八田西キリスト教会を応援してくださっていますことを心から感謝しています。今日は、久しぶりに浜寺聖書教会での礼拝メッセージということで、どのようなことを学ぼうかと考えた結果、私がかこの教会で学ばせていただいたことで、なおかつ、この9年間に、私が改めて考えさせられ、また、教えられたことについて、ごいっしょに聖書のみことばから分かち合っていきたいと思います。聖書の箇所は使徒の働き6章です。

命題：みことばが教える「教会のリーダーたち」に関するガイドライン

さて、この箇所を読む前に予め話しておきたいことは、このみことばは「キリスト教会が選ぶべきリーダーたちについて教えている」ということです。改めて言うまでもなく、リーダーを選ぶことは非常に大切なことです。というのは、例えば、会社においては社長、学校においては校長、日本という国においては総理大臣、そのリーダーたちのちゃんとした舵取りが必要なように、教会のリーダーにもそのことが求められるからです。リーダーがいい加減な人物であると、間違いなく、私たちは数多くの問題を抱えることになるし、神からの祝福も失ってしまうことにもなりかねません。

そこで今日は、この聖書のみことばが教えている、教会のリーダーたちに関する指針、幾つかのガイドラインに関して見ていきたいと思います。そうすることによって、この教会が益々神のみこころを理解することができ、神に祝され、神に用いられていくことを願います。

1. みことばが教える、教会のリーダーたちの条件 1-3節

最初に見るポイントは、みことばが教えている「教会のリーダーたちの条件」です。神は、教会のリーダーとしてどのような者たちを選ぶべきかを教えているのでしょうか？先ず、そのことを皆さんといっしょに確認したいと思います。1-3節を読みます。

- 1 そのころ、弟子たちがふえるにつれて、ギリシヤ語を使うユダヤ人たちが、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して苦情を申し立てた。彼らのうちのやもめたちが、毎日の配給でなおざりにされていたからである。
- 2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。
- 3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

◎初代教会に起こっていた問題解決のために選ばれた、委員会メンバーの条件

1節の初めに「そのころ、」という説明があります。当然ながら、これはその前の記事から繋がっています。4～5章を見ると、この当時、エルサレムの教会は信仰ゆえの迫害に遭っていました。それで仕事や財産を失った者たちを助けるために、多くの人たちが自発的に財産を共有して助け合っていたと記されています。しかも感謝なことに、この当時のエルサレム教会はそのような助け合いがあったからか、厳しい迫害の中にあってもますます信者たちが増し加えられていったと、そのことが4：4や5：14に書かれています。「4:4 しかし、みことばを聞いた人々がだぜい信じ、男の数が五千人ほどになった。」、「5:14 そればかりか、主を信じる者は男も女もますますふえていった。」

しかし、このようなときに、教会の中で問題が起こったことが記されています。1節に見る通り、ギリシヤ語を使うユダヤ人のやもめたちが、食事の配給に関してなおざりにされているということでした。先程言ったよう、この時、エルサレムの教会では信者たちが共同生活を送っていたのですが、人数

が多いこともあって十分に機能していなかったようです。

そこで十二使徒たちは「弟子たち全員を呼び集めて」と、つまり、教会のメンバー全員を招集してこのようなことを訴えるのです。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。

そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。」と。そして、十二使徒たちは、教会の問題を鑑みて、教会の中から7人を選ぶように指示します。そうして、選ばれた7人がこれらの問題に対処するようにと働きかけるのです。一部の教会では、この時に選ばれた7人が執事の始まりであると考えます。そのことに関しては諸説あってはっきりとは言えませんが、私はこの時に選ばれた7人は執事ではないと考えます。なぜなら、この7人が「執事」としては聖書のどこにも紹介されていないからです。それともう一つ、実は、この後「使徒の働き」を読み進めていくと、「(教会の)長老」ということばは出て来ても、「執事」ということばは1度も出て来ません。もしも、この時に選ばれた7人が最初の執事であるなら、どうして「使徒の働き」に「執事」ということばが出て来ないのでしょうか？そのようなわけで、私はこの時に選ばれた7人が「執事」ではなく、この時に起こっていた問題解決のために特別に召集された、ある種の委員会のようなメンバーであったと考えます。

しかし、私たちが今日注目したいのはこの7人が選ばれるに当たって十二使徒たちが出した条件です。この時、十二使徒たちは「**毎日の配給**」、つまり、食事の分配に関する混乱を解決するために7人を選ぶようにと手配したのですが、その条件に注目してください。普通には、このような場合、どのような人たちが選ばれるでしょう？皆さんはどうお考えになりますか？「食事の分配に関することならご婦人に任せよう」とか、あるいは、「栄養士の資格を持っている人やヘルパーの資格を持っている人を選んでどうか？」、また、「ギリシヤ語を使うユダヤ人たちから3人、ヘブル語を使うユダヤ人たちから3人を選んで、それぞれ話し合ってもらったらどうか？」などと、その問題の当事者やその問題に通じている方たちを選ぼうとされるかも知れません。

しかし、みことばを見ると、この時、十二使徒たちは「当事者たちから選びなさい」とか「食事の問題解決に長けた人を選ぶべきである」というようなことを一切言っていません。むしろ、この時に起こっていた問題とは全く無関係に思えること、「御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。」です。ここに「御霊と知恵とに満ちた、」とあるように、確かに、彼らは聖書のみことばや様々な「知恵」に通じていたでしょうが、食事の分配方法や当事者の気持ちなどに関して特別に秀でていたわけではありません。でも、このような人物を選んで事に当たっていくのが教会のあるべき姿なのです。

◎監督(=牧師)や執事たちの条件

1テモテ3：1-12を見てください。ここには、教会の霊的なリーダーたちである監督(=牧師)と執事たちに関する具体的な条件が挙げられています。「:1 人がもし監督の職につきたいと思うなら、それはすばらしい仕事を求めることである」ということばは真実です。:2 ですから、監督はこういう人でなければなりません。すなわち、非難されるところがなく、ひとりの妻の夫であり、自分を制し、慎み深く、品位があり、よくもてなし、教える能力があり、:3 酒飲みでなく、暴力をふるわず、温和で、争わず、金銭に無欲で、:4 自分の家庭をよく治め、十分な威厳をもって子どもを従わせている人です。:5 ——自分自身の家庭を治めることを知らない人が、どうして神の教会の世話をすることができましょう——:6 また、信者になったばかりの人であってはいけません。高慢になって、悪魔と同じさばきを受けることにならないためです。:7 また、教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。そしりを受け、悪魔のわなに陥らないためです。:8 執事もまたこういう人でなければなりません。謹厳で、二枚舌を使わず、大酒飲みでなく、不正な利をむさぼらず、:9 きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人です。:10 まず審査を受けさせなさい。そして、非難される点がなければ、執事の職につかせなさい。:11 婦人執事も、威厳があり、悪口を言わず、自分を制し、すべてに忠実な人でなければなりません。:12 執事は、ひとりの妻の夫であって、子どもと家庭をよく治める人でなければなりません。」

今日はこのみことばを詳しく見ることは時間の関係でできませんが、どうぞ皆さん、このみことばが教えている内容を、大きな単位でまとめて理解してみるように努めてください。ここで挙げられている条件は、監督も執事たちもそれほど大きく違ってはいません。使われていることばや表現が違っているので、細かい部分に関しては少しの違いがありますが、その方向性に関しては全く同じであると言うことができるのではないのでしょうか？

例えば、監督や執事の条件で両方に共通している項目のうち、簡単に、同じようなことばが使われているものを拾ってみると、①非難されるところがない、②ひとりの妻の夫である、③子どもと家庭をよく治めている、④自分を制している、⑤酒飲みでない、⑥不正な利をむさぼらない、となります。もっと注意深く比べてみると、共通している項目をもっと挙げることができます。

でも皆さん、どうして監督や執事たちにこのような多くの条件が挙げられて「**こういう人でなければなりません。**」と、厳しく、また、細かく教えられているのでしょうか？どうして、彼らは酒飲みであったり、金銭に対して貪欲であったり、高慢であったりしてはいけないのでしょうか？それは、これらのことがみな神のみこころではないからです。

改めて言うまでもないことですが、教会における最高のリーダーはイエス・キリストです。ですから、エペソ5：23には「**なぜなら、キリストは教会のかしらであって、ご自身がそのからだの救い主であられるように、夫は妻のかしらであるからです。**」と書かれています。また、1コリント12：27にも「**あなたがたはキリストのからだであって、ひとりひとは各器官なのです。**」と教えられている通りです。教会という集団はみなイエス・キリストを主とする者たちの集まりであるゆえに、その究極のリーダー（＝トップ）はイエス・キリストです。ですから、私たちは教会の中で、何かのリーダーを決めるに当たって、最高のリーダーであられるイエスの考えに通じて、そのイエスのみこころを重んじる者でなければなりません。だから、監督の条件でも執事の条件でも「**教える能力があり**」とか「**きよい良心をもって信仰の奥義を保っている人**」という項目があるのです。

今日見ているみことばに出て来た、エルサレム教会で選ばれた7人についても「**御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち**」という条件は、先ほど見た監督や執事たちの条件と大きく違ったものではありません。その方向性はほとんど同じであると言えます。というのも、この時に選ばれた7人は①御霊に満ちた者でした。彼らはみな、心から神に従う者たちであったことでしょう。また、彼らは②神の知恵に満ちた者でもありました。つまり、この人たちは、聖書のみことばに通じていたのです。そしてまた、彼ら7人は③「**評判の良い人たち**」でした。これらは監督の条件にある「**教会外の人々にも評判の良い人でなければいけません。**」という項目とほとんど同じです。

つまり、教会は何かを考え、何かを決定しようとする時、常に、神のみこころを求め、その神のご意志に従っていかなければいけません。もちろん、それは教会の行く先を左右するような大きな決定に関してもそうですし、あるいはまた、それほど大きな選択ではないような場合でも同じです。ですから、当時のエルサレム教会も、食事の分配に関して、いい加減な者たちを選ぶことをしないで、みことばが教える通りに「**霊的なリーダー**」を選んだのです。

これらのことは皆さんもよくご存じのことと思います。しかし、もしかすると、私たちは教会のリーダーたちを選ぶに当たって、あるいは、教会のリーダーたちを評価するに当たって、神のみこころに通じているかどうか、または、神のみこころに従おうとしているかどうかという聖書的な判断ではなく、別の基準によって判断してしまっていないのでしょうか？例えば、自分の好き嫌いであったり、あるいは、この人が来るなら教会の会計が潤うようになるとか、あるいはまた、この人が教会の舵取りをするようになれば教会の人数が増えるとか...。もちろん、そのような変化が悪いというわけではありません。でも、もし、私たちが聖書のみことばに沿った基準以外のもので教会のリーダーを選んだり、教会のリーダーたちを評価したりするなら、そこには「**神の教会**」、キリストをかしらとする「**キリストの教会**」は存在しません。でも、現実には、そのような間違った基準によって教会のリーダーたちを選ぼう

としたり、教会を評価してしまうことがよくあるのです。

実は、このことは、私がつい最近、八田西キリスト教会で聞いたことですが、教会のメンバーにクリスチャンホーム出身の方がおられて、その方はこの日本でもかなり大きな教団の教会に幼い頃から通っておられたのだそうです。そして、青年になる頃まで、その教会に通って教会学校や礼拝でメッセージを聞いておられたのですが、その方が言われるのには「神は愛である」というメッセージは何度も聞いた記憶があるが、「神は義なる正しいお方だから必ず罪をさばかれる」とか「永遠のさばきがある」ということはほとんど聞いた記憶がないというものです。それどころか、礼拝のメッセージでは、聖書のみことばがメッセージの導入のように用いられるだけで、最も大切な、みことばを解き明かすことや、神のみこころを探るといようなことはなく、まるで、牧師先生の体験談のようだと言われるのです。

そのようなことは私も時々には耳にしたことがあります。現実には聞くと「ああ、やっぱりそういったことは本当なんだなあ」と改めて感じさせられました。そんなこともあったので、私は最近、比較的大きな教会の礼拝メッセージなどをインターネットからダウンロードして聞くことができます。やはり、聖書のみことばを全く解き明かそうとしていなかったり、少し考えたら分かるようなことを間違っている場合があったりして、実は、多くの教会が聖書のみことばに余りウエイトを置いていない、ということが分かって非常に残念に思っています。

「キリストの教会」と名乗っていても、その中で聖書のみことばが語られないで、みことばが疎かにされてしまっているということは実に残念なことです。でも、皆さん、悲しいことに、それが現実なのです。私が願うのは、せめて、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんはそのようなことがないように、すべてのことを神のみこころに沿った基準によって評価していただきたいです。

II. 教会が重んじるべき優先順位 2-4節

次に見ていきたいポイントは「教会が重んじるべき優先順位」です。先ほどと重なりますが、2-4節をご覧ください。

2 そこで、十二使徒は弟子たち全員を呼び集めてこう言った。「私たちが神のことばをあと回しにして、食卓のことに仕えるのはよくありません。

3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

4 そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」

◎使徒たちが示した優先順位

今見たみことばから、今度私たちは、キリストを主とする教会が重んじるべき正しい優先順位について学んでいくことができます。この時、エルサレムの教会の中で、食事の分配に関する問題が起こっていたのですが、それに伴って、十二使徒たちは教会が尊重すべき優先順位を明確に教えています。それが2節にある「私たちが神のことばをあと回しにして、」ということばです。そして、3節の後半では「私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。」とあって、このことが十二使徒たちの監督のもとに行われるべきことが分かります。また、4節に「そして、私たちは、もっぱら祈りとみことばの奉仕に励むことにします。」とあって、再び、十二使徒たちが優先すべき項目が挙げられています。それが「祈りとみことばの奉仕」です。

確かに、教会にあって、食事のことはどうでも良いことではありません。しかも、この当時は、教会のメンバーの多くは共同生活を送っていましたから、それは教会にとって、ある意味、死活問題であったと言えなくもありません。でも例え、そうであったとしても、それは十二使徒たちの最優先事項である「祈りとみことばの奉仕」以上に優先すべきものではありません。1テモテ5：17-18をご覧ください。「:17 よく指導の任に当たっている長老は、二重に尊敬を受けるにふさわしいとしなさい。みことばと教えのためにほねおっている長老は特にそうです。:18 聖書に「穀物をこなしている牛に、くつこを掛けてはいけない」、また「働き手が報酬を受けることは当然である」と言われているからです。」

ここでは、長老、つまり、牧師たちの待遇について教えられていますが、その条件とも言えること、「牧師の一番大切な働きはみことばを学びそれを教えること」と書かれています。ここで言われている「二重に尊敬を受ける」とは、教会の者たちが牧師たちのことを敬うことはもちろん、その報酬においてもその尊敬を表わしなさいということです。もし、教会の皆さんが、聖書のみことばに一番の重きを置いて、みことばを学ぶことを皆さんの優先順位の一つに据えてくださっているなら、教会のメンバーはそのための環境を、つまり、牧師がみことばを学び易いような環境、あるいはまた、それを伝え易い状況を作ろうとするはずで

◎多くの牧師たちが直面している現実

しかし、現実問題として、この日本において時々このようなことを聞くことがあります。それは、教会の牧師が余りにもたくさんの雑用に振り回されてしまって、肝心のみことばの学びができないということです。例えば、集会が行われる前には、牧師が机やイスのレイアウトをしたり、集会后には、皆が帰った後の後片付けや掃除をしたり、というような状況です。もちろん、集会前後の雑用などは、余り大したことではありませんが、でも、それらが一時が万事、そのような調子なので、牧師のみことばの学びに支障が出てしまっているのです。

しかも、悲しいことは、教会員の方々がその現状に気付かないで、「うちの牧師は本当に腰が低くて、とても気が利くのです...」というような理解で、教会全体が正しい優先順位を実践できていないのです。まるで、教会員がお客様であるかのような立ち居振る舞いをしてしまっているのです。そのようなことを時々聞くことがあります。皆さんはお聞きになったことがありませんか？

実は、このことは私が実際に経験したことです。1999年のことです。当時、私が通っていた神学校の教授が、ご自分が牧会しておられる教会兼自宅に私と家内を招待くださったのですが、その時、その先生が「土井兄弟、このことは本当に私が悪い見本としてお見せするのですが、あなたは絶対にこんなふうにはならないでください！」と言われました。今から何を見せてくださるのか？とっていると、その先生はまた繰り返して、「本当にこのことは私の悪い見本として反省しているわけで、ぜひ、兄弟にはこんなことにはなっていないでいただきたいのです！」と言われるのです。何度かそれが繰り返されて、ようやくその先生が見せてくださったのは、つい先日の礼拝メッセージのノートでした。そのノートはA5位の大きさで、しかも、そこに書かれてあったのは聖書の箇所が数ヶ所と、幾つかのコメントだけで、1分もあればすべてを書き写せるほどの内容だったのです。その先生がおっしゃるのは「牧師も20年、30年と続けていると、これ位のメモがあれば数十分間くらいは語ることができるのです。」ということでした。私はそのことが余りにもインパクトが強過ぎて、今も忘れることができません。恐らく、その先生は雑用というか、みことばの学び以外のものに時間を割かれ過ぎて、最も肝心なみことばの学びをする時間が取れないまま、その週の礼拝を迎えてしまって後悔しているという感じでした。でも、実際は、そのようなことがこの教会では起こってなくても、多くの教会で見られるというのが現状かも知れません。

ある意味、感謝なことに、私は今、それとは全く正反対で、しっかりとした聖書の学びと、詳しく記した原稿がないと何も話せないというようになっています。私の場合は少し極端過ぎるかもしれませんが、ほとんど準備をしないメッセージよりは良いと思っています。

もう一つ、今日、私が紹介したいことがあります。それは、2006年のことだったと思います。この教会にいのちの泉キリスト教会（＝今の八田西キリスト教会）の長老たちが来てくださって、当時の浜寺聖書教会の三牧師とで話し合ったとき、近藤先生がいのちの泉キリスト教会の長老たちに対して、こんなことを話されました。それは、アメリカのGCC（Grace Community Church）が、現主任牧師のジョン・マッカーサー先生を招聘しようかどうかを検討していたときのことですが、その前に教会からマッカーサー先生に一度メッセージをお願いしたそうです。GCCの役員たちはそのメッセージを聞いて「今回のように、実に詳しく聖書のみことばを解き明かしてくれるのなら、ぜひ、この教会の

牧師になっていただきたい。」というオファーをされたそうです。でも、それに対してマッカーサー先生は「もしそうなら、私に週40時間(=1日8時間×5日?)聖書を学ぶ時間をください。それを許してくれるなら、私はここの牧師になります。」と返答されたそうです。もちろん、近藤先生は、いのちの泉キリスト教会の長老たちに対してそれと全く同じことを要求されたわけではありません。GCCのような大きな教会で何人ものスタッフが居る教会と、ここ日本とでは明らかに環境や状況が違うからです。でも、近藤先生が言ってくださったのは、それが私たち牧師の優先順位であり、同時に、教会が優先すべき内容でもあったのです。

皆さん、1ペテロ2:2をご覧ください。非常に有名なみことばですが、そこには「生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。」と教えられています。でも、皆さん、考えてみてください。どうして、このみことばは、聖書のみことばのことを「赤ちゃんが飲む乳」にたとえたのでしょうか？それは、私たちの霊的な成長は聖書のみことばによってしかもたえられないからです。だから、ここではわざわざ「生まれたばかりの乳飲み子のように…」と教えるのです。それは、生まれたばかりの赤ちゃんは乳しか口にできないからです。つまり、私たちの霊的成長に必要なのは、聖書のみことばだけなのです(厳密には「みことばと聖霊」ですが)。そうであるにも関わらず、教会でしっかりとみことばが語られなかったなら、教会員の皆さんは、どのようにして成長していけば良いのでしょうか？感謝なことに、私は、近藤先生が最初にいのちの泉キリスト教会の長老たちに正しい優先順位を教えてくださいましたおかげで、9年経った今も、もちろん完全ではありませんが、聖書的な目標を見据えて、ある程度は、みことばに沿った牧会ができています。

III・正しいリーダーを備えた、教会が受けられる祝福 5-7節

最後に、みことばに沿った正しいリーダーたちを備えた教会が受けることのできる「祝福」について学んでいきましょう。

5 この提案は全員の承認するところとなり、彼らは、信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、およびピリポ、プロコロ、ニカノル、テモン、パルメナ、アンテオケの改宗者ニコラオを選び、

6 この人たちを使徒たちの前に立たせた。そこで使徒たちは祈って、手を彼らの上に置いた。

7 こうして神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。そして、多くの祭司たちが次々に信仰に入った。

◎初代教会が正しい優先順位を実践した結果

当時、エルサレムの初代教会は十二使徒たちの提案を受け入れたことが分かります。しかも、このみことばが教えるように、感謝なことに、教会のメンバー全員が十二使徒たちの提案を、神のみこころであると理解してそれを承認しました。それで3節に記されている条件の通りに、「御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人」が選ばれました。それが、①信仰と聖霊とに満ちた人ステパノ、②ピリポ、③プロコロ、④ニカノル、⑤テモン、⑥パルメナ、⑦アンテオケの改宗者ニコラオです。

十二使徒たちは祈った後にこの7人の上に手を置いたというシーンが描かれています。これとよく似たことが、例えば、旧約聖書のレビ記などで、牛や羊たちの頭に手を置いているシーンを見ます。これはそれらが自分たちの身代わりであり、自分たちと一体であることを意味します。この時に選ばれた7人は十二使徒たちの信任を受けて、彼らの代わりに、当時の教会で起こっていた問題に対処していったのです。

さて、このようなことの後、エルサレムの教会がどうなっていったのか？そのことが最後の7節に記されていました。十二使徒たちが正しい優先順位を実践してみことばの奉仕に専念できたゆえに、「神のことばは、ますます広まって行き、エルサレムで、弟子の数が非常にふえて行った。」とあります。しかも、それだけではありません。何と「多くの祭司たち」までもが次々と信仰に入っていたというのです。神は、このようにして、みことばを愛し、みことばを実践していったエルサレムの教会を祝福していった

くださいました。

また、それだけではありません。この時、エルサレムで選ばれた7人のメンバーの中にステパノという人物がいましたが、その後、彼は神のメッセンジャーとして用いられ、聖霊に満たされてメッセージを語っていきます。そして、彼はそのことのためにクリスチャンとして最初の殉教者になります。また、その他にも選ばれた7人の中に後に伝道者となったピリポがいました。このピリポも、その後、主にあって用いられて、エルサレムからサマリヤへと移動して宣教活動を始め大きな成果を上げます。あの有名なエチオピアの宦官に対してみことばの解き明かしをしています。

皆さん、実に興味深いと思われませんか？彼らはほんの少し前まで、教会の食事に関する問題解決のために選ばれたメンバーたちであったのです。でも、その者たちが、しばらく後に、十二使徒たちに勝るとも劣らないような働きをしていったのです。教会で起こった様々な問題を解決するために奔走するようなことは、もしかすると小さいことのように思うかも知れませんが、決して、どうでも良いことではありません。私たちの主なる神は小さいことに忠実な者にこそ大きなことを任されるからです。イエスはこのように言うておられます。ルカの福音書16：10「**小さい事に忠実な人は、大きい事にも忠実であり、小さい事に不忠実な人は、大きい事にも不忠実です。**」と。

ですから、本当に救われたクリスチャンたちは、それがたとえどんなに小さなことであっても、神が喜んでくださることなら、そのことを忠実に全うしようとするのです。神が喜ばれないことには簡単に妥協しません。皆さんも同じです。皆さんのこの教会も、神のみこころを重んじてそれを実践していくなら、間違いなく、神はこの教会を、これからももっともっと祝福してくださいます。実際、天の神は、もうすでにこの教会を祝し、これまでもたくさんのすばらしいことを成してくださっています。天の神は、この教会を通してたくさんの救われるたましいを起こしてくださり、皆さんを通して、神のみことばを、救いのメッセージを広めてくださったではありませんか！そして何より、神からの祝福は、みことばを正しく学び、そのみことばを実践しておられる皆さんがそのことをしっかりと実感しておられることです。

◎教会のリーダーには、皆さんの祈りや協力が必要！

いつも言われることですが、教会とはこの建物のことではありません。教会とは、今ここにおられる救われた皆さんおひとり一人のことです。ということは、この教会全体が主において成長し、神に用いられていくためには、教会の一部である皆さんの、キリストのからだのパーツである皆さんの祈りや協力が必要だということです。

確かに、この世の中の多くの教会がそうであるように、ルール上で教会員の過半数が同意するか、あるいは、この教会では長老たち全員が賛成であれば、システム的には教会は何らかの決定を下すことができます。しかし、イエスがマルコ3：24-25で「**24 もし国が内部で分裂したら、その国は立ち行きません。 25 また、家が内輪もめをしたら、家は立ち行きません。**」と教えておられるように、教会もルール上では何らかの決定を下すことができたとしても、そこに皆さんの理解と協力とがなければ、神のみこころに沿った教会を維持し運営していくことはできません。

実は私が、当時のいのちの泉キリスト教会へ行き出した時こんなことがありました。ある時に私が教会の長老の方へ「基本的に、私は毎週月曜日を公休日とさせていただきます。もちろん、何か集会があったり、特別な場合は別ですが…」と話をさせていただいたところ、長老の方が「えっ！牧師にも休みがあるのですか？でも考えたら、それは当然ですよ…」と言われたのです。というのは、いのちの泉のメンバーには「牧師は1週間7日、1日24時間を神と教会とにささげているべきである」というような理解があったからです。それを聞いた時、正直、私は「これは大変だろうなあ…」と思いました。お互いの背景が大きく違っていたからです。自分にとっては当たり前のことが、向こうには当たり前でない、自分にとっては常識的なことでも教会の方々には非常識に映りかねない、というようなことが想定されたからです。

実際、私が向こうの教会へ行ってから、お互いの理解や認識が違うということは数多くありました。例えば、私がいのちの泉キリスト教会に行った最初のクリスマスのとき、集会のチラシを作った時に何気なくクリスマスツリーのイラストを入れたのですが、教会の方々には「クリスマスツリーは聖書的ではない。教会にふさわしくない。偶像ではないのか？」という考えがあったようで、私の作ったチラシでちょっとした混乱が起こったことを、チラシを配った後で知らされるということがありました。

でも、感謝なことに、私たちにはお互いが一致できる点がありました。それがイエス・キリストを信じる信仰であり、聖書で教えられている唯一真の神のみこころです。感謝なことに、私たちはみことばを通して分かり合えるし、文化の違いや環境の違いなどを乗り越えて主にあって一致できるのです。これもまた神の祝福です。

そのようなことで、私たちの群れは、少しずつではありますが、ここ9年の間にいっしょに祈り合い、また、聖書のみことばを確認することによって何とか分かり合えるようになって来ました。でも、このようなことは、八田西キリスト教会の場合だけではなく、この浜寺聖書教会でも同じことです。教会にはクリスチャンである皆さんの理解と協力、そして、皆さんの祈りが必要です。今日、私が心から願いますことは、皆さんがますます神の前にへりくだって、そして、聖書のみことばによって、より一層強く一致していただくことです。

今日のメッセージでお話しさせていただいたように、残念なことに、「教会」という名が付いてはいても余り聖書のみことばが語られていない教会、みことばによって訓練されていない教会、聖書のみことばを重んじていない教会、みことばに従おうとしていない教会があります。と同時に、私たちクリスチャンも、みことばに立っていないクリスチャンや、みことばによって訓練されていないクリスチャンになってしまっている可能性があります。どうぞ、今日、このメッセージを聞いてくださった皆さんは、ますます神を愛し、その神のみことばに立った教会を立ち上げていってくださいますようお願いします。

Ⅱコリント13：13

「主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがたすべてとともにありますように。」